

【取り組むべき施策】（計画抜粋）

- 県のヘルスケア・ニューフロンティア施策における循環器病の研究推進では、特に、「発症直前の予兆から救急搬送開始まで」の間を「発症期」として新たに着目するとともに、「予防・早期介入から後遺症を有する者のQOL向上に資する方法まで」の研究開発について、学術分野や組織の境界を取り払い、医学の取組に加え、理工学や人文社会科学の学術的知見などを融合させた研究開発を推進する。

⇒ **政策局いのち・未来戦略本部室で取組を推進。**

結果について適宜協議会へ情報共有

脳梗塞等の研究・実証（令和5年度当初予算：4,007万円）

【令和5年度の実施の主な取組】

- ① 水素ガス吸入によるt-PA治療の予後改善効果の実証（令和4年度からの継続）
- ② 心電図のAI解析による「隠れ心房細動」診断の実証（令和5年度からの新規）

など

① 水素ガス吸入によるt-PA治療の予後改善効果の実証 (令和4年度からの継続)

1 目的

- ◇ 抗酸化物質として注目される**水素ガス**に着目
水素ガスを事前吸入することにより、
 - ① **t-PA治療可能時間の延長**や**予後改善**を目指す
 - ② t-PA投与の**副作用である脳出血の抑制効果**が得られるか実証

2 令和5年度の実証試験 (研究機関：東京都健康長寿医療センター)

- ◇ **水素ガスをマウスに事前吸入させることで、t-PA投与の副作用である脳出血の抑制効果が見られた。**
- ◇ 今年度の実験では、水素ガスの吸入時間を「虚血開始からt-PA投与後まで」で実験を行ったため、令和6年度以降、**効果的な水素ガスの投与開始のタイミング・吸入期間の検討**を行う。



② 心電図のAI解析による「隠れ心房細動」発見の実証 (令和5年度からの新規)

1 目的

- ◇ 脳梗塞予備軍の早期発見の仕組の構築 ⇒ 地域住民の健康増進・介護負担の軽減
- ◇ 健康診断の心電図検査データのAI解析を行い、「**隠れ心房細動**（通常的心電図検査では見逃される心房細動）」を検出



2 令和5年度の実証

AI解析 → 心房細動の可能性がある人を抽出
→ 小型1チャンネル心電計を1週間装着 → 結果陽性となった方に病院の受診を勧める

- ◇ 実証体制：大学・医療機関の連携で実証

東京医科歯科大学	AI解析
県立保健福祉大学（ヘルスイノベーション研究科）	追跡調査
県内医療機関	健康診断、心房細動・脳梗塞治療

- ◇ 実施対象者：湘南アイパークに勤務する就労者や、小田原・平塚市内を中心とした住民
- ◇ 実証見込み：約200名
- ◇ 実証結果：※現在心電図データをAI解析中

令和6年度当初予算（いのち・未来戦略本部室） 科学技術イノベーション共創拠点推進事業費

- 事業内容 「K S P・川崎市殿町地区・湘南アイパーク等の共創拠点を中核に、科学技術により社会課題を解決するため、再生医療や脳梗塞・食等のプロジェクトを推進するほか、認知症未病改善についての新規プロジェクトを関係機関等と協働して開始するとともに、新たに立ち上げるイノベーション社会実装本部等のコーディネート機能を発揮することで、先端技術の研究開発や事業化を促進する。

①	殿町再生医療実装共創ラボ構築事業	3,799万円
②	安全・安心で豊かな食プロジェクト	5,566万円
③	脳梗塞等の研究・実証	3,814万円
④	認知症未病改善プロジェクト	3,955万円
⑤	イノベーション社会実装本部	2,414万円
⑥	異分野融合プロジェクトのコーディネート等	1,825万円